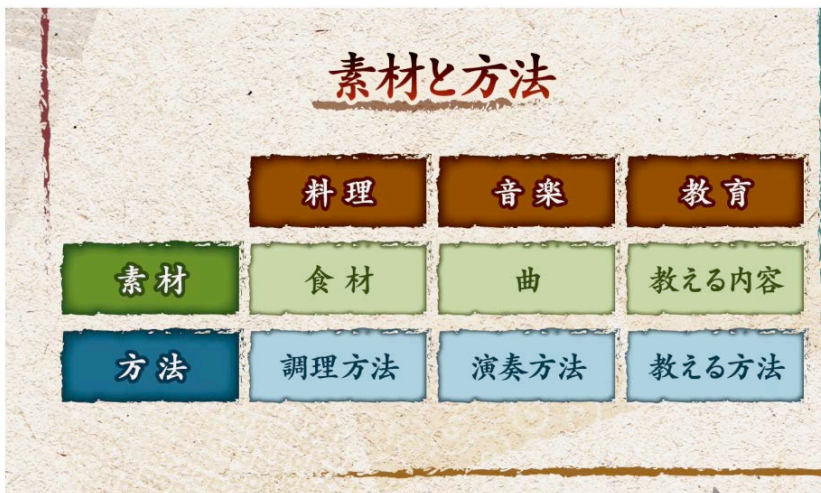
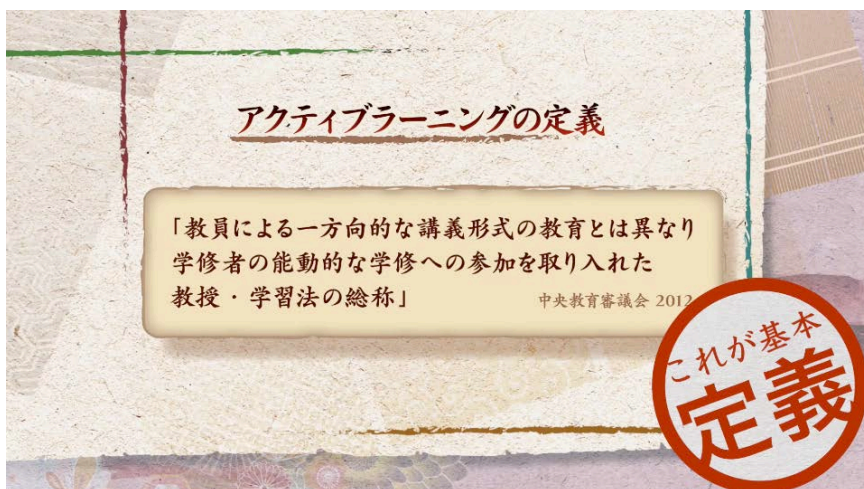


パート1. アクティブラーニングとは？

- ・ 料理も授業も、「素材」と「方法」が重要

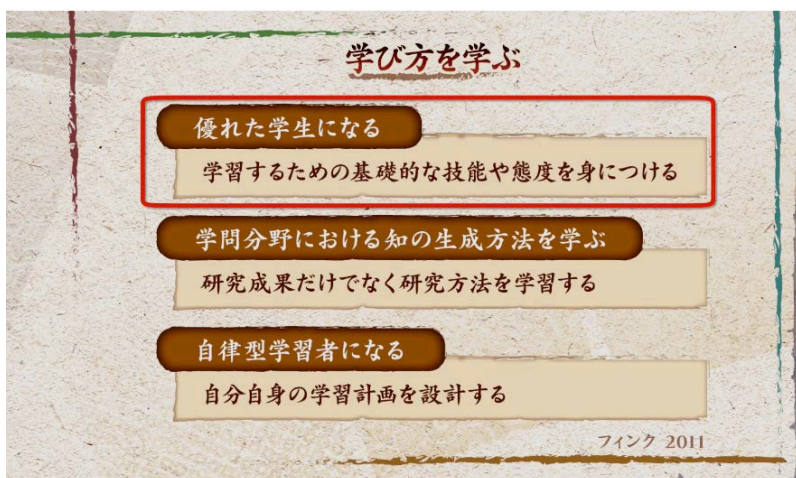


- ・ アクティブラーニングの定義：

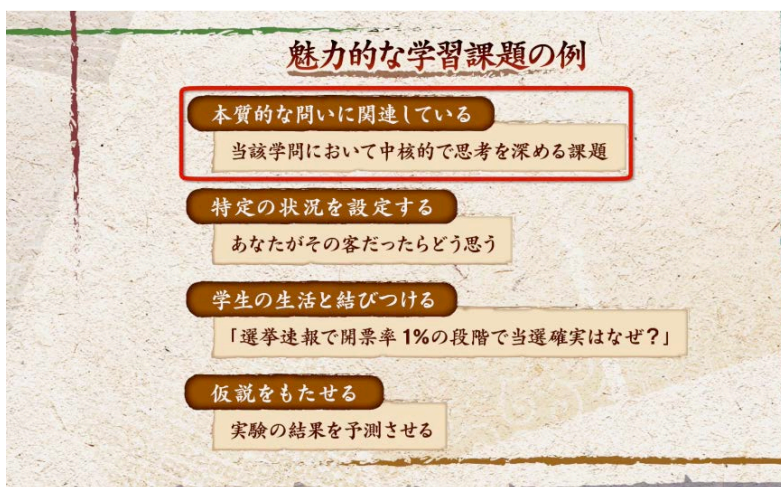


- ・ 講義法はインプット型の学習、アクティブラーニングはアウトプット型の学習
- ・ 学習はインプットとアウトプットの両方で成り立っている

- ・ 今、あらゆるところに知識があるからこそ、教師の役割を考え直さなければいけない時代
- ・ アクティブラーニングによって学び方を学べる
- ・ 学生が学ぶための仕掛けづくりが大切！



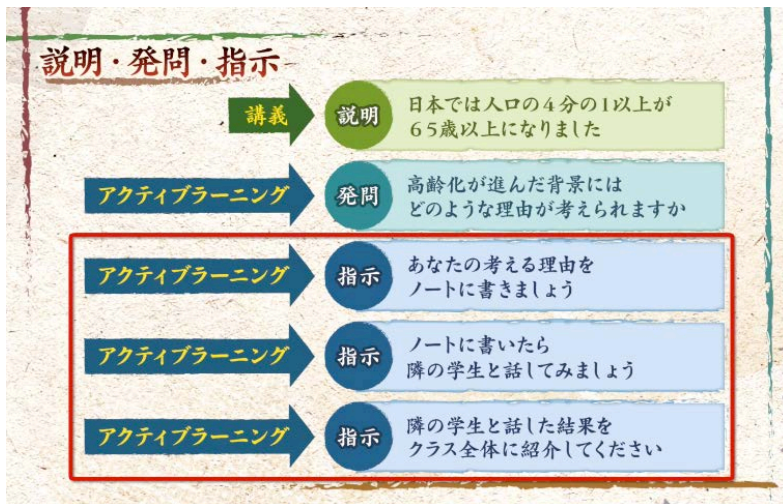
- ・ 学習課題とは：「学生がどのような学習をすべきかを提示するもの」
- ・ 重要なのは、魅力的な学習課題を設定すること



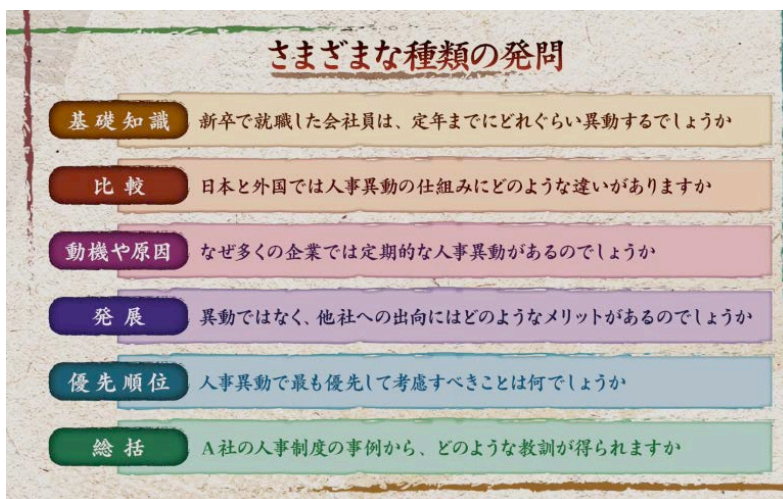
- ・ 学生に問いを投げかける上では、
 - ロールプレイ
(ある場面を想定し、学習者が登場人物を演じるにより現実場面で対応できるようにする)
 - ケースメソッド
(実際に起きた問題事例を教材として、グループ討議のなかから学習者自身が最善策を導き出す)
- などの教育手法も効果的

パート 2. 学習意欲を高めるには？

- ・ アクティブラーニングでは、問いかけて考えさせる → 学習意欲を高める
- ・ 教師の言葉には説明・発問・指示の 3 種類がある
- ・ そのうち、発問と指示がアクティブラーニングには重要



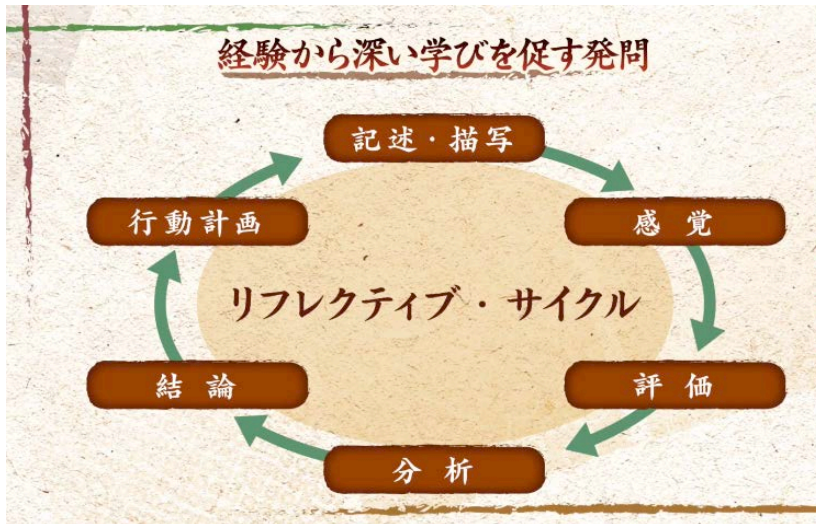
- ・ 質問とは：自分が答えを知りたくて問いかけること
- ・ 発問とは：学習者を考えさせるために問いかけること
 - 発問の効果を高めるには指示が重要
 - 発問は連続して使うと効果的



- ・ 答えが一つに定まらないほうが議論は盛り上がる

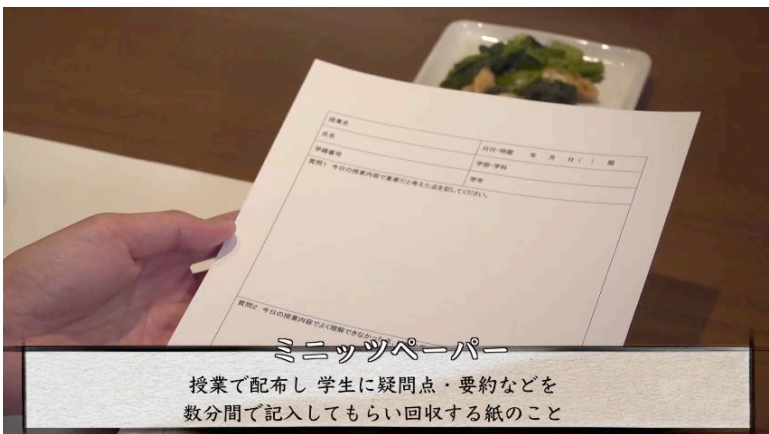
・経験を学習に変えるためには、リフレクティブサイクルを意識する
その際の留意点は

1. 過去から未来へ
2. 具体を抽象化する
3. 事実だけでなく感覚を大切に

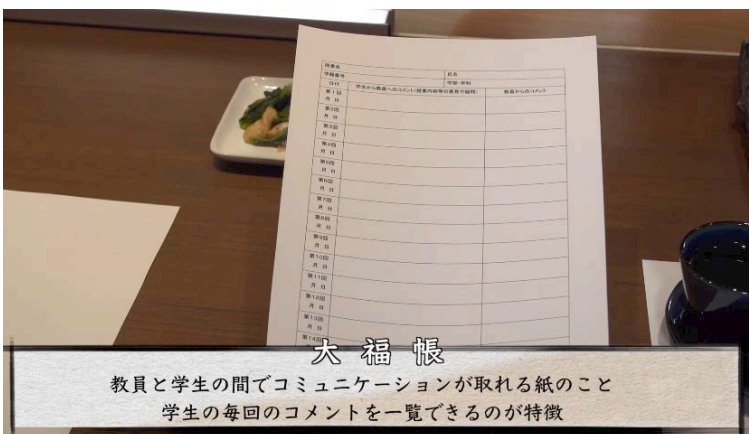


パート3. 効果的に「書く活動」を取り入れるには??

- ・ 書くことのメリットは「保存性」
- ・ 学生に提出物を管理させるには、のちの学習で使うことを事前に指示しておく
- ・ ミニツツペーパー：授業で配布し、学生に疑問点・要約などを数分間で記入してもらい回収する紙のこと。出席を確認する、内容の理解度を評価する、次回の授業で話題にするなどで活用できる。



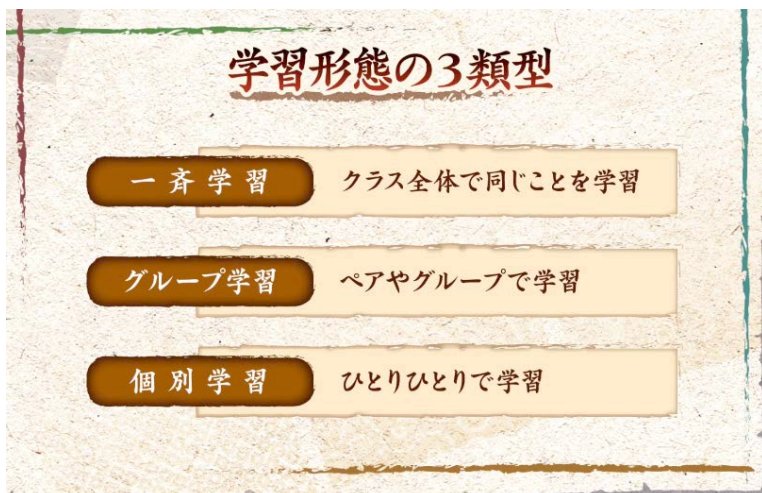
- ・ 大福帳：教員と学生の間でコミュニケーションを取れる紙のこと。学生の内海のコメントを一覧できるのが特徴。



- ・ これらを組み合わせた活用も効果的
- ・ 書く時間を確保する方法
 - ① 授業時間外に書いてもらう
 - ② ICT を活用する
 - ③ LMS (Learning Management System) を活用する
 - * LMS : e ラーニングに必要な学習教材の配信や成績などを統合して管理するシステムのこと。
- ・ 携帯端末も活用していく (※現場の状況に応じた対応も必要)。
 - 最終的に、学生が自身の力でまとめられるようになる

パート4. グループ学習をうまく運営するには？

- ・ グループワークは事前の設計が大切
- ・ 学習形態の3種類をうまく組み合わせる



フリーライダー（：本来やるべき活動をやらずに利益だけを受ける者）を生まないために

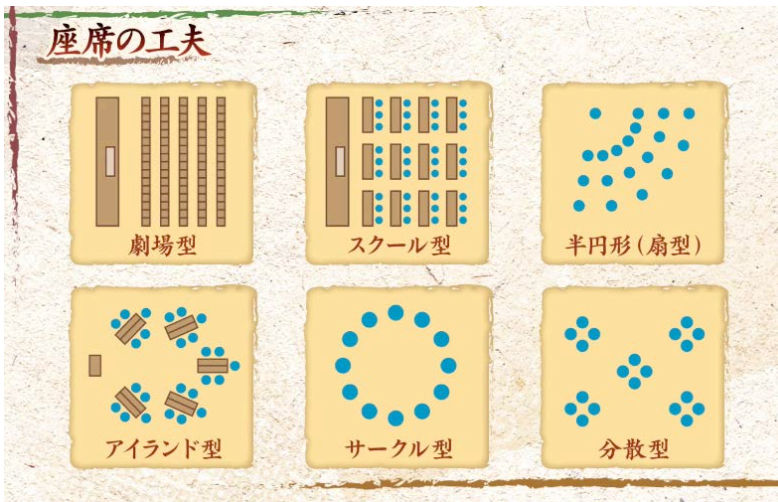
- ・ グループワークのルールを明確化する
 - 肯定的なルールを作る
(例) 全員が発言する、他人の意見を尊重する、名前呼び合う、拍手を使用
- ・ グループワークそのものを評価する
- ・ グループワークは少人数単位で行う
 - パズ・グループ (バス学習)：小グループごとに議論させる技法。パズとは蜂の羽音のこと。思考の交流や意見の集約に活用される。6人のグループで6分間議論を行うことから、六・六法と呼ばれることもある。

- ・ グループ編成の3つの方法

グループ編成の方法

	長所	短所
無作為に決める	<ul style="list-style-type: none"> ・ 速やかに決定できる ・ 学生から見て公平に見える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ メンバーの多様性が保障されない ・ 協同学習の目的に合わないグループが作られる可能性がある
学生に決めさせる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が主体的に決定できる ・ 学生間の関係性を教員が把握できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ メンバーの多様性が保障されない ・ 友達中心のグループになってしまう
教員が決める	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の興味や特徴を考慮に入れて決定できる ・ 協同学習の目的に合わせてメンバーを決定できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の準備の時間が必要である ・ 教員主導に進められているように見える

- ・ 座席の種類

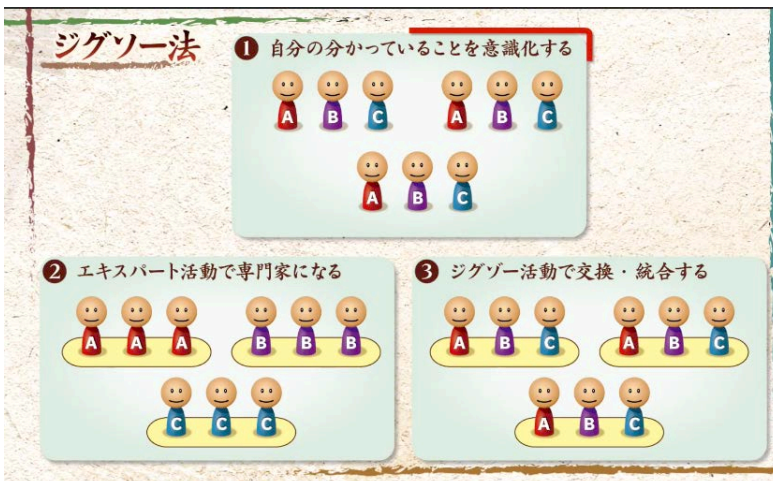


- ・ 指導が必要な場合：アイランド型
 - ・ 指導が不要の場合：サークル型、分散型
- が効果的

- ・ 発言しない学生をグループワークに参加させる工夫



→ 発言のハードルが下がり、発言しやすくなる



→ 学生同士相互で教え合いができる

- ・話す方だけがアクティブにならないように…
グループ発表の際の工夫



→ 話す方だけでなく聞く方も集中できる
ポスターの見本を示すことは重要（見栄えにとらわれないよう注意が必要）

- ・ 教員個人だけでなく、カリキュラム全体でアクティブ・ラーニングを見直すことが重要

アクティブラーニングについてもっと学びたい人のための参考文献

- ① 中井俊樹編編（2015）『アクティブラーニング（シリーズ大学の教授法 第3巻）』玉川大学出版部
…アクティブラーニングの定義や背景、授業での活用方法が具体的に紹介されている。
- ② 松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター編（2015）『ディープ・アクティブラーニング』
勁草書房
…ディープなアクティブラーニングを生じさせるためのヒントが理論面、実践面から示されている。
- ③ 溝上慎一（2014）『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂
…アクティブラーニングとは何かについて理論的に整理されている。
- ④ エリザベス・バークレイ、パトリシア・クロス、クレア・メジャー（安永悟監訳）（2009）『協同学習
の技法—大学教育の手引き』ナカニシヤ出版
…具体的な実践例を取り入れながら、協同学習の指針と技法が提示されている。
- ⑤ 日本教育大学院大学監修・高橋誠編著（2008）『教師のための「教育メソッド」入門』教育評論社
…アクティブ・ラーニングを喚起するための技法を30に整理されている。
- ⑥ D.W.ジョンソン、R.T.ジョンソン、K.A.スミス（関田一彦監訳）（2001）『学生参加型の大学授業—協
同学習への実践ガイド（高等教育シリーズ）』玉川大学出版部
…グループの形態に焦点を当て、アクティブラーニングの指針と技法が整理されている。